

# 子供の町

昭和二十四年二月  
埼玉県北葛飾郡  
南葛市井村  
法政団 子供の町 発行

発刊のこぼし

園長 山崎まさの

つたなきながらも「子供の町」のたよりをだすことになりました  
「子供の町」のごどもたちがいっしょうけんめいにかいたものです  
「子供の町」はまだうまねてきもないあかちゃんのようなものでヨクヨクとあふやして いきます  
みなさんにまけないようにがんばりましよう

長瀬のキャンプ

中一 島田正市

僕たちはこの夏、鉄父の住所長瀬へキャンプに行きました  
一同ののつた縣庁のトラグはにぎやかな町、山と谷にはさまれたデニホコ道などを走って目的地についた  
けわしい山、すんなりした山そして目の前にはゴトゴトと音をたて 川の水が流れている

一日目の夜に幻燈会があり  
アム公の鉄父風景がまわく  
らな大自然の中でただホ  
ツンと白まくにうつる  
ゴトゴトと流れる水の音……  
夢の様な夜はふけていった  
よく朝とびおきて清い水の  
流れに手をいれてかほ  
を洗った  
さあ ぼんごう炊きんだ僕  
は生れて始めてだうれしく  
てくくたまらない  
ご飯たべるとまでは歌を  
うたってニコくがほでたべ  
た その日は山のぼりをし  
たり 写真をうつしたり  
野上中学校で野球試合を  
したり 泳いだりしてとても  
楽しかった  
宝登山の頂上から目下  
にひらける鉄父の風景は  
びくくの画の様に美しくも  
けいの様に小さく 国道は白  
く山のうしろに向ってうね  
っていた  
夜 キャンプファイヤーをかこ  
んで皆で楽しい一時を  
すごした 僕等はイマエの  
唄うクイカイデニマニと

いう歌をならべてうたった  
楽しいく夜 キャンプ  
ファイヤー……や谷をこま  
流れる川の水音 そんな  
大自然の夜空にもえ上る  
キャンプファイヤー 僕はいつ  
までもくそのあかりを  
忘れることは出来ない



中一 城島華夫

リンリンリン  
ごはんがぬかになりました  
みくなく  
かけてく  
とんでいったよ

ホカくまじゆう  
ゆげをたてて  
ならんでく  
ひかてるよ

あつあつおめめ  
こつちのおめめ  
うれしいねと  
させやいたよ

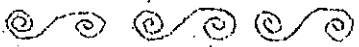


中一 島田正市

ゆうびんやさん  
僕の手紙  
まましたかと  
たづねてみれば  
安顔 寄り寄り

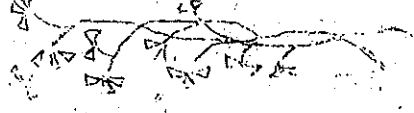
あたらしいグラウンド  
中一 岩田信行

ぼくらの子供の町にまた  
らしいグラウンドができま  
した  
ぼくは学校からかえつて  
くると みんなでやきゆう  
をまいにちします  
ぼくはうれいす  
そしてニホームをきて  
やきゆうぼうをかぶり  
スパイクをはいてつよい  
こどもたちのまちのやきゆう  
せんしゆになるのです



よしあきちゃん  
中一 岩田昌三

「ぼんちいさいよしあき  
ちゃんはおいもがすぎで  
おいもがすぎで たまり  
ません  
おねえさんに まいにち  
まいにち おいもがたべた  
いというのです  
ゆうべはおいもがほしく  
なつてベットの中におい  
もを入れてもらつておいも  
と一しょにねました  
おいもがなくなつたときよし  
あきちゃんはどうするの  
か  
いまからぼくほしほいす



中一 森 栄一

さよそよと  
栗林をぬけて  
秋風がわたってくる  
かすがべゆきの  
電車の音を  
かすかにく  
のせて

さよそよと  
栗林をぬけて  
秋風がわたってくる  
みのりの葉つれの音を  
さやくのせて



中一 佐藤 登

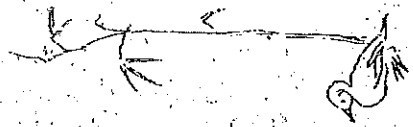
新しい子供が  
やって来た  
僕達みんな  
長い廊下を  
ゾロくへいて歩く  
仲よくしようねと  
心の中で  
ちかいながら  
がんばるんだよと  
心の中で  
いきかせながら

子供の町

アプタン先生  
中ニ森栄一

十月三日僕はなつかしいアプタン先生にあつた。僕が毛呂の病院の玄関を出ると向ふからアプタン先生が美しいイヤイヤで病院の坂を上つて来ました。そして僕と弟と三人に「毎日学校へ通つていますか」とたづねましたので毎日通つていますといひます。とこゝどは僕の方へ眼を向け「学校に行く途中はその家のものを盗んではいけません」とおしやるので僕は「何もしてはいません」といひます。と「何を言つてはいけませんよ」となどと話し合つています。そこへ病院の院長様が来られて弟に「学校へ行くときよその家の庭の柿などどつてゐるでしょう」とおしやつたのでアプタン先生は僕を弟とまちがえていたことがわかりそこでみんなが大笑をしました。アプタン先生は僕に「こゝれんさいね」とおしやいました。アプタン先生曰「いつでも

いつでも僕等を案じていて下さるのです。僕はキツト良い子供になります。



チヨゴン  
チニジ  
小鳥がないた  
さあ朝だ  
こどものまちに朝が来た

たのしい  
たのしい  
朝が来た  
今日もみんな  
とび舞わらう  
はねまわらう

小森利英

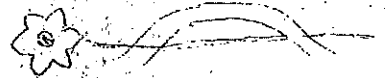


えんそく

こどものまちにきてからぼくはまいにちがうこつへいつてもくぐんきぼうをしていひます。せんせいのいうこともよくきいていひます。えんそくにいきました。うれいそあしたおてんき

になるとはひとあつてよきものがなをねむれませんでるてるほうすもくりました。

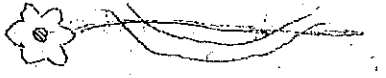
川のふちでおぐんとうやせんべやあめやみかんをたべてすっかりなつぽのがばんもてがえりました。



中ニ馬田正市

いも二カ  
買ったでもらつた  
うれしさに  
朝からふいた  
夜までふいた  
みたれさく

コニエスの中に  
われ立ちて  
ふちさむなり  
若人のうた



正倉院

中ニ佐藤登

僕は十月六日上野にある国宝正倉院へ見学にまゐりました。陳列されてゐる品々の数は一番から一五番まであつてめづらしい古色ゆかしいものがならんでゐた。

中には聖武天皇の御刀、象牙で作つた杖とか、国におさめた布きれとか、天平時代に使つたという琵琶横笛などがあつた。それから女びぼうふには橘の花や小鳥の画がかいてあつても立派で美しかった。

昔の人がこんな上手にあつたものが観賞してビックリする程のものを作りあげたということ。ほどのくらいわれく祖先が古い文化をもつていたということにきついで、宗嚴はその陳列品の前に何人となしに頭が下る思ひをした。来なかつた友達にも見せてやりたい話してやりたいと思ひながらきを出た。

小三 飯吉 博

池のふちの栗の木に  
みんなのぼつた  
あつちでも  
こつちでも  
ゆすぶつた

たまちやんが  
なごさげで  
まつていたよ  
いほいにして  
いさんでかえつたよ

小ニ城鳥幸夫  
でんしゃにのつて  
まためつて  
こどものまちに  
つきました  
おまじがどつさり  
ならんでた  
こぼんをたべてまひなけて  
すもうをとつて  
よるがきた  
べつたの上で  
ねんねした

財団法人子供の町は、ろが、神父様、東条朝の物、日本に少年の町を建設する様、おす、め、あり、その関係者、努力の、策、本年、五月、設立された、もので、あり、ます。小高い山の栗林の中に、緑にかこまれて、建設された「子供の町」こそは、平和、日本、再建の、礎石、となるべ、き、少年を、強く、正しく、明、るく、育成、すべき、理想の、本、に、出発、した、もので、あり、ます。関係者、並に、職員、一同、萬、難を、排して、その、完成、に、努、力、中、の、もので、あり、ます。皆、様の、内、声、援、を、お、願、ひ、申、し、ま、す。